

■**椎名其二** **特異なフランス体験を有し、あらゆる拘束を嫌う究極の自由人で、人生そのものが作品といえる存在。**

しいなそのじ

国民之友始・1887＝ 秋田県仙北郡角館の武家屋敷で、士族地主椎名徳治、母マツの次男に生まれる。兄と五人の妹。

帝国憲法発布1889＝ 2歳：

町方との区別残るなか、優越感を持ちながら、一高に進学した兄の友人で華厳の滝で自殺した藤村操や兄の同窓安倍能成らの影響を受けて育ち、

日清戦争始・1894＝ 7歳：

白馬会・・・1896＝ **9歳**：

Bushidou・・・1899＝12歳：秋田中学入学、同期に堀井金太郎。

日比谷公園・1903＝16歳：同級生と先生を殴る事件起し退学処分、抗議のストライキで校長辞職後、上京し、慶應普通部に転入学。

日露戦争終・1905＝**18歳**：早稲田大学英文科に入学するが、講義が期待外れだったことから、

アヲヲ^{アヲヲ}創刊・ 1908＝21歳：新進教授安部磯雄に不満を訴え、アメリカ行きを勧められると、徴兵検査忌避すべく、中退して、**渡米**。コロンビア市のミズリー州立大学新聞科に入学。

大逆事件判決1911＝24歳：**大学新聞に「アメリカにおける日本人排斥と人種差別」投稿して経済学者タイラーの知遇を得、ソローやホイットマンのことを話すと、彼の家に招かれ、雑木林のなかの手づくりの小屋での学生生活に感銘。**

明治天皇没・1912＝25歳：

大正政変・・・1913＝26歳：卒業。セントルイスやボストンの新聞社に勤務するも、記者生活には満たされず、自殺思うまでになったところ、宗教的体験。堀井が後を追って同大学に入学するも学生生活になじまず中退、

第一次大戦始1914＝**27歳**：カリフォルニアで堀井と共同生活し、生活苦を体験。**フランスのジャン・ジョレス暗殺の報に衝撃受け、21ヶ条要求**・1915＝28歳：堀井が無言で帰国後、セントルイス近郊で農業を始めるも貧窮。**アムハースト農学校の聴講生として学ぶうち、ファールルの死去の報にも衝撃、彼らやロマン・ロランの国フランスを知りたいと、**

民本主義・・・1916＝29歳：

***渡仏。パリに着き、英文で職を求めるも返事もなく、最後にと手紙したイギリスの詩人エドワード・カーペンターの紹介で、ドンムのポール・ルクリュ家**に招かれ、石川三四郎に会う。オンドの農学校で村夫子のような校長の斡旋で、ピレネー山麓のクリュッピ家の農場で働く。ロマン・ロランの親友だったクリュッピ夫人に厚遇される一方、人妻マリー・ラヴァイユと恋仲となり、馳け落ち。

ロシア革命・1917＝30歳：パリ郊外の国立火薬工場で働く。長女が誕生するも夭折。フランスを守るべく戦場行きを決意するも、

本格政党内閣1918＝31歳：ベクリュに止められ、再度ドンムの彼の家で田園生活に戻り、早大から留学中の吉江喬松と親交。

ベルサイユ条約・1919＝32歳：

大暴落・・・1920＝33歳：石川の依頼で、ヴェルサイユ講和会議に特派された黒岩涙香の通訳をつとめ、ヨーロッパ各地を案内。マリーを伴ってベルギーに越境、ブリュッセルの自由大学を見学し、総長ド・グレーフの教えを受ける間、長男ガストンが誕生。

原敬首相暗殺1921＝34歳：子供の健康のために田舎に引込みながら、日本へ帰国の資金調達、マリーの旅券取得のため奔走。

水平社結成・1922＝35歳：**マリーと長男伴って、帰国し、帰郷。亡父継いだ兄純一郎が当時は珍しい西洋館を建ててくれるが、堀井の経営する農場に住込んで、助言や手伝いするも挫折。**

関東大震災・1923＝**36歳**：

吉江の推輓で早大高等学院講師となり、東京田端に転居、そこで、吉江、石川らと自由講座を行ない、農民文学、フランス文学思想を研究するサロンとなる。関東大震災が起り、石川とも**王子警察に拘引される。**

護憲三派圧勝1924＝37歳：

杉並に転居。前年虐殺された大杉栄の遺志を継ぐべく、吉江に訴え、授業時間数を縮小してもらい、**ファールルの「昆虫記」翻訳に専心し出版。**

治安維持法・1925＝38歳：

円本時代始・1926＝39歳：この年、クリュッピ夫人死去。早大文科講師、高等学院教授となる。「ファールルの一生」翻訳出版。

金融恐慌・・・1927＝40歳：

共産党事件・1928＝41歳：ベロシヨ「ネエメ」翻訳出版。**異国での生活が淋しかった妻が、独断で長男を連れて帰国してしまうと、高等学院教授を辞任。慰留を振り切り、堀井梁歩と佐伯祐三だけに見送られて出航し、フランスに帰る。**

世界恐慌・・・1929＝42歳：

海軍軍縮条約1930＝43歳：渡辺頼吉の紹介で大倉商事パリ支社で働くが、**「武器商はいけない」と辞職。再度絵の勉強に来るも精神に異常をきたした佐伯祐三をセース県立エブラル精神病院に入院させ、献身的な看護にあたるも、死去、**

満州事変・・・1931＝44歳：

五一五事件・1932＝**45歳**：

日中戦争始・1937＝50歳：

兄純一郎死去の報。

健保+総動員 1938＝51歳：

来仏した渡辺を迎え、自宅で会食。**親友堀井が死去し衝撃、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲に救われる。**

第二次大戦始1939＝52歳：

勤めの傍ら、フランス農業及び社会史研究とモラリスト研究(戦後原稿すべてを焼却)。

大政翼賛会・1940＝53歳：

ナチス・ドイツ占領下のパリで、日本大使館内の海軍事務所勤務。フランス政府に従いヴィシー移動。

日米開戦・・・1941＝**54歳**：

イギリスからのド・ゴールの**“自由フランス”**の声を聞き、密かにフランス人に電話を貸し、レジスタントに連絡をとらせ、多くのフランス人をナチスの手から逃れるさせる。

年金+総武装 1944＝57歳：

日本政府要員が日本へ引揚げ、ごく少数日本人として在留するうち、連合軍がパリ解放。

敗戦・・・1945＝58歳：

敵国人として捕虜収容所に捕えられ、劣悪な待遇で体をこわし、日本の敗戦を知る。パリ物理化学学校校長ポール・ランジュヴァンが老病おして警視庁を訪れ、'椎名はわれわれに協力してくれた人間である'と証言してくれて、釈放され、挨拶に行くと'あたりまえのことをしただけだよ'といわれる。

新憲法公布・1946＝59歳：

ランジュヴァンが死去、国葬となる。***収容所生活で健康を害し、住居も失い、友人の世話でルイ14世の厩舎だった物置“熊洞”に妻と住み、日本人の稼業は認められないなか、書店店主の友人たちの厚意で製本装幀の仕事始める。出来栄えが知られ、ある教授が“東洋の哲人”と話したことで、学生らが面会に来る。**

朝鮮戦争始・1950＝**63歳**：

日本では忘れられつつあった時、芹沢光治良が、編集者に案内されて“熊洞”を訪れて帰国後、

独立回復・・・1951＝64歳：

メデー事件・ 1952＝65歳：

芹沢が発表した小説「女の都」で田舎の作男扱いに不快感。昔の教え子らのパリ留学が始まり、日本の近況を語るうち、自らの帰国を嫌う日本からの伝言にも憤慨。森有正らと交遊。日本人の誇りを忘れることはなく、

国連加盟・・・1956＝69歳：

親しかったパリ大学法学部のE教授と口論となって、**「私は日本人だ」と怒鳴ったことも。**

なべ底不況・1957＝70歳：

教え子らの帰国促進運動に、一度は拒否するも、帰国し、甥の家に寄寓。新聞、出版の記者多数来訪。転々と引越した後、麹町の原由美方で“椎名フランス語教室”を開くも不成功。【中央公論】に「自由に焦れて在仏四〇年」「パリで知った黒岩涙香」「佐伯祐三の死」「石川三四郎のことなど」、【声】に「農民作家エミール・ギヨマンその他」を発表。ラクロワ「出世をしない秘訣」を翻訳し出版。帰郷時、歓迎会、講演会など。

美智子妃・・・1959＝**72歳**：

ロマン・ロラン協会主催の会で講演をし、参会者に感銘させて、ファンも増えるが、かつての教え子の早大教授から“養老院入りのすすめ”を受けて失望、再びフランスへ帰る決意をかため、

安保闘争・・・1960＝73歳：

安保反対の巨大なデモ行進の隊列に感慨。兄の孫娘ミチ同伴でフランスへ戻り、**ジャック・ルクリュ家の別荘で余生を送る。長男が母マリーを連れて来訪、マリー一族とも再会。**

タイタイ病始・1961＝74歳：

ミチがパリで仕事をみつけ、**まったくの独り住いとなって衰弱、**

全国総合計画1962＝75歳：

パリの病院で、**没した。**

蜷川譲「パリに死す」、